

戦評

大会名 令和5年度第76回青森県高等学校総合体育大会バレーボール競技

日時 令和5年6月3日～5日

会場 八戸市東体育館ほか

男子決勝（6月5日）

$$\underline{\text{弘前工業高等学校}} \quad 2 \quad \left\{ \begin{array}{l} 25-22 \\ 25-21 \end{array} \right\} \quad 0 \quad \underline{\text{五所川原工科高等学校}}$$

ファーストレフリー

新岡 勇士

セカンドレフリー

津島 由香

3大会連続43回目の優勝を目指す弘前工業高校（以下弘工）と3大会ぶり9回目の優勝を目指す五所川原工科高等学校（以下五工）との対戦。

第1セット序盤、弘工は高さのあるブロックと丁寧な守備を軸に、渡辺のサイド攻撃、長内のブロックで一步リードの展開。対する五工も三橋のサイド攻撃で応戦。弘工は要所で長内、三浦拓の速攻、柴田のサイド攻撃を決め中盤にかけて一気に主導権を握り、14-6としたところで五工タイムアウト。その後、五工は高橋の速攻、三橋のダイレクトスパイクで一時流れを掴む。終盤は両チームが取り合う展開となり、弘工が序盤のリードを守り、第一セットを先取した。

第2セット序盤、一進一退の攻防が続く。弘工は粘り強い組織的なブロックと連動した守備で丁寧にボールを運び、サイド攻撃や速攻で加点していく。一方、五工は三橋のサイド攻撃、サービスエースで4連続得点をあげ、中盤にかけて主導権を握る。数点取り合った後、五工三橋が前衛に上がり、5連続得点で5点差とする。中盤にかけて、五工はサイド攻撃やバックアタックを織り交ぜリードを守りながら加点し、19-14としたところで弘工タイムアウト。しかし、タイム後、弘工は組織的なブロックで確実にワンタッチをとり、長内の速攻、柴田のサイド攻撃で連続得点。五工は2回タイムアウトを使用するも、流れを断ち切ることができず、9連続得点で弘工が逆転に成功する。最後は柴田の攻撃が決まり、弘工が3大会連続43回目の優勝を決めた。

戦評者 本間 貴士